

主張

資料館の建設を急げ

佐伯史談会副会長

清田義雄

(佐伯市東区)

『毛利家文書・佐伯文庫二千七百七十冊、藩政時代の
仕器じゆうきや武具・農機具その他を充分に保存して市民に公開
するために資料館を緊急に作れ。用地は法務局跡か、三
の丸の下がよいと思う。

佐伯史談会に協力を求めて資料館の運営と管理をして
もらったらよいと思う。(鶴谷産報)

これは五十七年第七回佐伯市議会定例会に於て梅田国
貞議員による提案の要旨である。

かつて佐伯史談会がたびたび文書や口頭で陳情してき
た図書館・民族資料館・歴史資料館等の建設について、
図書館は漸く目的を達し、蔵書に批判はあってもその充
実の基盤はでき上った。資料館についてはいま目の目を
見ようとしている。

佐伯市の独自性をもった街の維持発展は、その歴史性
を背景とした文化遺産の尊重と理解によって生れる。

海人の住みついたという古代資料までは早急に及ばな
くても、藩政時代の貴重な資料が、虫害・兎害・火災・
盗難の心配等一日を争う程危険な状態におかれている。

高泰公「拜見謹封」の署名を残す高政公の御肌召は武
人らしい粗末なもので破れがあり、血痕らしいものの跡
が見られ、おそらく賤しんが岳の戦いか、朝鮮役に韓将元豪
と戦い兜かぶとまで鉄棒でたたきつぶされてもひるまず、これ
を生捕りにした際の負傷か、このときのくぼんだ兜と共
に殊勲を残す遺品ではなからうか。「拜見謹封」は藩主
継承しるしの印と遺訓を示す継承品であると思われる。

銃砲術の名手であった高政公譲りと思われる火繩銃・

大砲・軍扇・鎧・兜・陣羽織・馬具等の武器・武具の類
櫛時計を初めとする日常生活の什器類など手入れのない
まま蔵されている。

佐伯の歴史を知る上の必見資料の藩政記録（これは佐
伯文庫と共に佐伯図書館に移されたが公開はまだである）
・各藩秘密保持の藩政時代は地形、城下の街作り等、藩
の作成以外正確な資料はないが、元文三年の「佐伯城及
城下図」（山中家蔵）「御城下分見明細図」（文政
九年教育委員会蔵）と共に修理図と称する幕府へ提出の
控図（山城図）・秋月新再拜薫沐謹書の高政公出自の記
録・能筆家の揃った藩主の書・画軸・領地目録外の文書
類がまだ池彦裏の土蔵に眠っている。

民族資料館には一品一品が高価なもののみが選り出さ
れる訳ではない。庶民のそれぞれが佐伯という地域空間
のもつ独自性の中に（旧市内だけでなく連帯感情で結ん
だ範囲として佐伯市南郡を考える）、地域のそれを生か
しながら、苦しみの中に智慧と努力で残していった足跡
がある。

此の蒐集は、世代の交替と生活状況の激しい変化によ
り、不要のものとして破棄されて蒐集が困難であるが、

教育委員会の加藤氏が多年心がけて集められた資料が基
盤になろう。基礎がすわれば協力者は生れる。

地域文化を大切にすることは、固有の歴史的風土を破壊
して単調化していく物質文明の破壊からまもりぬくこと
である。人間本性の創造性を発揮する場を失い、心の拠
り所を失って枯渇していく社会相に対して、先人の生き
方に学び、連帯感情で結んだ生活環境をつくりあげてい
く心の根に培えるものと考ええる。

踏み出しの遅れている佐伯の文化施設の一つとして、
早く根を下し、大きく構えた構想で実現の緒をつけてほ
しい。注文はいろいろあるが、展覧の表の計画のみに捉
われずにその裏方にこそ施設を生かして発展充実させ、
効果的な活力として育てる鍵がある事を注文したい。

